

# 強者の戦略

《シリーズ》もしもセンターの問題が東大

## 【解答】

- 問1 C地域は新期造山帯に属して活火山が見られるが、D地域は海嶺付近で形成されたサンゴ礁が海底の沈降に従って環礁となっている。(60字)
- 問2 ダーウィンは雨季と乾季に分かれるサバナ気候であるが、リマは寒流であるペルー海流の影響で乾燥し砂漠気候となっている。(57字)
- 問3 寒流のカリフォルニア海流を通過した冷涼な貿易風が吹くため。(29字)
- 問4 外貨を稼ぐ手段は、A地域はニッケル鉱の輸出、I地域はインド人が担ってきたサトウキビ栽培を基本とした砂糖の輸出である。(58字)
- 問5 イギリスのEC加盟により、貿易が伸び悩んだことと、国内の賃金水準が高騰し、アジアからの安価な労働力の導入を狙ったため。(59字)
- 問6 2003年のアメリカ合衆国でのBSE問題で、アメリカ産の牛肉輸入量が減少したことと、オーストラリアで穀物中心の濃厚飼料を用いた日本人好みの霜降り肉の生産が盛んになってきたから。(86字)

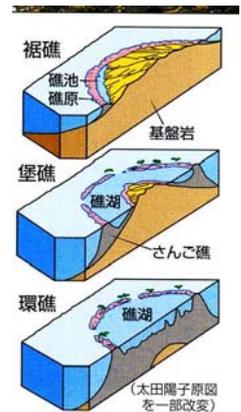
## 【解説】

みなさん、こんにちは。地理の南です。急に寒くなってきて困りますね。特に、電車なんかで暖房体制に入っていないため、いまだに涼風が出ていたりすることがあり、凍える思いで家路につくことがあります。人身事故も多くなってきて、遅延も多く、ささいなことに腹を立ててしまいそうになりますけど、ちょっとファニーなニュースに出会いました。東南アジアの仏教徒の肥満率が上がってきているそうです。民家の中を歩き回って鉢に入れてもらったものを食べる托鉢は有名ですが、実は、鉢の中に入れてもらったものはすべて食べなければならないそうです。近年はみんな豊かになってきているので、入れてもらう食べ物のカロリーが多くて肥満になったとのこと。しかも、エアロビクス的なダイエットも禁止されているので、痩せるに痩せられないんで

## 仕様で出題されたら (7)

すって。当たり前のように知っている托鉢も、現在では変容しているようです。世界の出来事を知るとは楽しいですね。まあ、そんな前置きはさておき、そろそろ問題の解説に入りましょう！

- 問1 C地域はニュージーランドの北島で、新期造山帯に属しています。インド＝オーストラリアプレートと太平洋プレートがぶつかることで陰峻なる山脈がみられるようになり、地下のマグマを利用してワイラケイ地熱発電所も設置されています。一方のD地域はフランス領ポリネシアに当たり、トゥアモトゥ諸島、ソシエテ



諸島、ムルロア環礁などがあります。ここでは環礁が書けるかどうかポイントですね。この地域のサンゴ礁は、太平洋中央海嶺から考えます。太平洋中央海嶺付近で火山が発生し、海上に顔を出すくらい海底火山が形成されました。最初は、この火山島の島の裾野ぐらいにサンゴ礁が形成されて裾礁となりました。ところが、この火山島はプレートの動きに合わせて北西に動いていく際に、どんどん沈降していきます。裾野のサンゴ礁も沈降に合わせて海底に沈んでいきますが、でも、サンゴは太陽の光を求めて海面付近まで成長していきます。すると、島から少し離れたところにサンゴ礁が形成されるようになり、この段階を堡礁と言います。さらに、プレートが北西に動いて島自体が沈降で海底に沈むと、サンゴ礁だけがかつての島を縁取るように形成されていくので、環のように見えて環礁となります。ちなみに、ソシエテ諸島のボラボラ島はまだ堡礁段階です。

- 問2 ペルーの首都のリマが砂漠気候であることは有名な内容ですね。もともと亜熱帯高圧帯に位置し、上空から乾燥風をたたきつけられているの

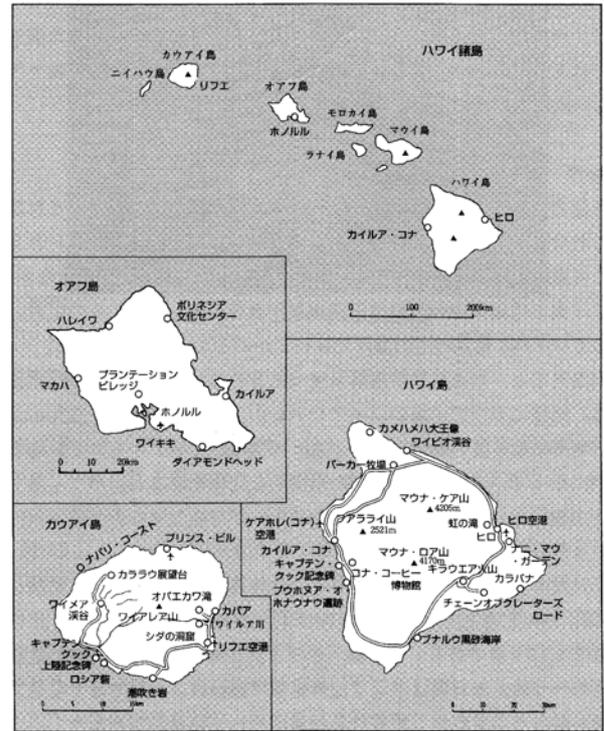
# 強者の戦略

に、寒流のペルー海流の影響で上昇気流が発生しにくくなり、さらに乾燥化が進みます。この結果、南米西岸ではアタカマ砂漠が発展し、リマも砂漠になります。一方のダーウィンは、夏季の間は赤道低圧帯の影響で湿潤地域となり、冬季の間は亜熱帯高圧帯の影響で乾燥地域となります。3～4ヶ月間の乾季を含むサバナ気候です。



問3 ハワイの各都市の気候が冷涼なのは、北アメリカ西岸を南下するカリフォルニア海流(寒流)と北東貿易風の影響です。各島の年間降水量をみると、貿易風の風上側と風下側で大きな差がみられます。例えば、ハワイ島では東海岸のヒロは年間降水量が3000mmを超えるのに対して、西岸のコナからカワイハエにかけての海岸ではわずかに500mm以下になります。

気候区分図をみると、ヒロは熱帯雨林気候であるのに対して、コナの海岸部は砂漠気候に属しています。同様にカウアイ島のワイアレア山は年間降水量1万2000mmを超える世界有数の多雨地帯になっていますが、その20km西側のワイメアキャニオンは500mm以下の乾いた土地になっています。一方、気候の垂直的な変化をみると、ハワイ島では、海岸付近の熱帯から山腹斜面の温帯、そして夏でもスキーが可能なマウナケア4205mの山頂付近の寒帯まで分布しています。



問4 ニューカレドニアに関しては、フランス領でニッケル鉱の産地であり、観光も盛んであることぐらいしか言うことがありません。

一方、フィジーはオセアニアの優等生といわれるほど経済開発が進んでいます。イギリス植民地政府が推進した砂糖生産が基幹産業として国家の経済を支えてきました。この国の砂糖製造は主にインド人労働者によって1862年に始められ、1870年代後半からはほぼ100年間は植民地製糖会社(CSR)のもとでサトウキビの集荷、製糖が行われました。

ところが、砂糖モノカルチャーで発展した経済政策に近年かげりが見えてきました、国家財政の拡大の一方で生産量が伸び悩んでいます。サトウキビ生産者の収入と単位面積当たりの生産量の変化を見ても、近年ともに減少しています。これは、サトウキビ畑周辺地域の急速な都市化が原因です。たとえば、1950年以前では畑の約30%は肥沃な平坦地にありましたが、1986年までには約16.5%にまで減少し、同時期に傾斜地にあるサトウキビ畑が4～5%増加しています。これは都市域が拡

# 強者の戦略

大して、商業用地、工業用地、住宅用地へと転用されたためです。また、観光開発が進み、ホテルやゴルフ用地へと変化しています。製糖工場周辺の低い土地にあるサトウキビ畑は、今後転用される危険性をはらんでいます。

問5 オーストラリアは、イギリスの植民地支配を受け続け、イギリスから独立した後も、オーストラリアとの貿易を中心として国家運営を行ってきました。ところが、**1973年にイギリスが突如、ECに加盟することになりました。**加盟した後は、イギリスがヨーロッパ中心の貿易を行うようになってしまっ、オーストラリアのことをあまり考えてくれなくなりました。すると、イギリスに手を切られたオーストラリアは、白豪主義政策を実施して黄色人種のいるアジアとも手を切っていたわけなので、誰と一緒に頑張っていけばいいか路頭に迷うこととなります。次第に先進国になるにつれ、自国の賃金水準は高騰してきました。安価な労働力も受け入れたい気持ちにもなります。こうした思いが募って、**1979年に白豪主義政策を撤廃し、アジアからの移民を受け入れるようになりまし。**アジアとの結びつきを強め始めると、日本との関係が改善していきます。日本は高度経済成長時期にあたり、鉄鉱石や石炭を輸入して重工業を発展させていた時代でした。日本は資源がほとんどないので、オーストラリアの西部で取れる鉄鉱石、東部で取れる石炭を輸入するようになったので、オーストラリアの大口の輸出先となりました。その後は、**中国や韓国**の経済も成長してきたので、輸出相手先として重要性を握るようになってきました。最終的には、1989年にオーストラリアが提唱して、**APEC(アジア太平洋経済協力会議)**が発足することになりました。最初、アジアを排除していたのに、今はアジアに積極的に入ってこようとしている感じですね。

問6 現在、オージービーフの名で知られるオース

トラリア産の牛肉は、日本のスーパーマーケットなどでも気軽に手に入ります。本来のオージービーフは、牧草を食べて育った赤身主体のものを言います。でも最近では、日本向けに脂身が混じったいわゆる「霜降り」肉の生産も行われるようになりました。この肉は、穀物を主体とした飼育期間を設けることで作り出されます。**2003年、アメリカ合衆国で発生したBSE問題を契機として、日本でもオージービーフの輸入量が急速に増えました。**大手の外食産業チェーンや個人営業のレストランを含めて、オーストラリア産牛肉の消費量は確実に増えてきていると思います。

ここまで読んでくださった方、お疲れ様でした。次回はどのような問題になるかわかりませんが、またお会いしましょう！